平 成 21 年 度　学 校 評 価 総 括 表

奈良県立高円高等学校

学校経営方針			評価（3月）
	1、魅力ある生徒を育成する学校に。	基礎学力、規範意識を土台にコミュニケーション力、自己表現力の高い人材を育成する。 授業でも、生徒会・クラブ活動でも、自ら考え、判断する習慣づけを徹底していく。	B
	2、挑戦意欲と広い視野を持った職員を育成する学校に。	組織として動ける土壌づくりを進めるとともに、常に先を見て内外の情報収集と新規企画を立ち上げる意識を全員が共有する。	
	3、芸術教育をリードする「誇り」と「意識」を持ち続ける学校に。	県立唯一の芸術校として強い力とマインドを持ってチャレンジを続ける学校、アピールを続ける学校にする。	
昨年度の成果と課題	**年　度　重　点　目　標**	**具　体　的　目　標**	
授業評価のシステムを導入し、これからが正念場である。授業改善のアクションを起こし、組織的、継続的に取り組むべき課題が明らかになりつつある。理解確認や予習復習の定着のさせ方に一丸となって取り組むべくプロジェクトを立ち上げる。一方、高円高校として「キャリア教育」の定義づけをはっきりさせ、総合的な学習の時間を使ったコミュニケーション力養成と連動した展開をする。「学力アップ」と「コミュニケーション力アップ」はもっとも基本的な課題であると同時に究極の課題でもある。本丸に集中していきたい。	**生徒の学力アップ**	授業評価システムの定着と継続的な授業改善の流れをつくる。積極的な授業公開、ディスカッション、また、外部研究機関との連携も模索する。生徒の学習意欲をどこまで上げられるか大きなチャレンジになる。	
	生徒のコミュニケーション力アップ	キャリア教育は進路対策にとどまるものではない。活力ある充実した人生を送るために「コミュニケーション力」にポイントを置き、「総合的な学習の時間」を中心に各授業、行事、クラブすべてで意識して取り組む。	
	職員のマネージメント意識アップ	個人と組織全体が目的とそれに向かうベクトルを共有し、有機的に行動できる職場をめざす。	
	中期計画の策定	高円高校の3年後、5年後をデザインする。教育課程、人材、設備、広報等の設計図を描く。外部との関連も含め常に進化を続けるための体制づくりを行う。	

評価項目	具体的目標	具　体　的　方　策	評価（3月）		次　年　度　の　お　も　な　課　題
教科指導	学力アップ	授業を中核に、予習復習のサイクルを定着させる。「わかる授業」「理解度の確認」を徹底し、効果を検証する。授業評価とも連動させる。また朝10分の「下学上達」は継続する。（プロジェクト立ち上げ）	B	B	◎学習進路部のリードで「キャリア教育」に関する数々の試みが軌道に乗りつつある。実は最大の弱点は教員の意識であり、柔軟度である。クラス単位の「総合的な学習」でもバラツキが目立つし、面接練習さえも型どおりの対応しかできていない。次年度は学習進路部、企画室、管理職主導で直接関与し、見せていきたい。◎授業評価は数字で見る限り改善されてきた。ひとつひとつは受け流す内容に過ぎなくてもその集積は個々の大きな差をありのままに表現する。◎教育課程は微調整の繰り返しが限界に来ている。普通科3類型や美術科・デザイン科講習の根本的な見直しに着手しなければならない。
	コミュニケーションカアップ	キャリア教育と総合的な学習のねらいはほぼ同じ。学校内外のすべての場面において言語活動（読む、書く、聞く、話す）を意識し、他者理解の習慣づけ、コミュニケーション力のアップに結びつける。（主管部門は学習進路部）（プロジェクト立ち上げ）	B		
	授業公開と授業評価	6月と11月を授業公開月間と制定。他教科、事務職、保護者、学校評議員等、関係する多くの方々の参画を促す。この機会をとらえ授業評価を始め、学校運営全般の評価へとつなげていく。	A		
	教育課程の再編成	普通・音楽・美術・デザイン各科の独自性と共通性、双方の観点から教科別の検証を進め、放課後及び土曜日の使い方も含め検討する。普通科各類型の見直しも行う。（主管部門はシステム部）	B		
生徒指導等	携帯電話マナーの徹底	生徒指導の最重要課題と位置づけ校内使用ゼロの完璧な状況をつくる。生活全般にTPOを理解した行動のとれる生徒に育てる。問題行動はゼロをめざす。（主管部門は人権生指部）	B	B	◎問題行動は前年度より件数が増加。（あいさつ、携帯マナーは向上）生徒指導全般に全教員の意識の再統一を図る必要がある。◎クラブ活動は中途での退部等による部員不足で活動停止に追い込まれる部もあり、学年集会等を通じてその意義を伝達していきたい。◎ピアルーム、ピアマネージャー会議は順調。特別支援教育の職員研修も実施できた。
	教育相談の体制充実	カウンセラーによるピア・ルーム、ピア・サポートの継続と充実。合わせて特別支援教育の全職員への浸透を図る。（主管部門は健康環境部）	A		
	クラブ活動の活性化	1年普通科入部率75%をめざす。試合やイベント（案内、結果）の校内広報を定着させる。コンクールや展覧会も同様。（主管部門は文化体育部）	B		
学校運営	中期計画	高円高校の進化、飛躍をめざし、職員全員がビジョン構築、アイディア提案のできる状況にする。管理職は「管理」ではなく、ビジョンの策定（3年後、5年後、さらに先）とそれに向けての行動（推進活動）が仕事と認識する。資金計画も前向きに考え、支援体制の構築と要請を考える。（管理職の最重要課題）	B	B	◎広報活動はあらゆる手だてを尽くしたと言える。4科とも一定数以上の志願者を確保し、好結果に結びついた。塾とのさらなる連携、中学校への継続的な情報提供とネットワークづくり、マスメディア対策等をさらにすすめ、盤石なものにしていきたい。◎学校運営のための人材育成を意図した動きを加速する。（サブリーダーレベルの会議開催など）◎中長期ビジョンの策定はスタートしたが、どうしても最後は人事の壁につきあたる。特に芸術（音楽・美術）は存続が不可能な陣容、体制である。県へのアピールの時期は過ぎ、具体的な採用、育成計画へと歩を進めていく流れをつくっていきたい。
	広報活動の充実	メディアへの露出（網をかける）と地域、中学校、学習塾等へのきめ細かなフォローを柱に常に情報提供、情報発信を行う。（主管部門は企画室）	A		
	人材育成	中期計画に連動して、次代を担う人材の発掘と育成を関連部署とともに計画し、実現を図ってゆく。外部の人材活用も視野に入れる。（普通科、音楽科、美術・デザイン科）	B		
	30周年の企画	今年度はアイディアの段階。関連するすべての個人、組織が自由、柔軟な発想で企画、提案する。	B		